

Why the long face ?

そんな顔して どうしたの?

ゲームデザイン
Penelope
Taylor

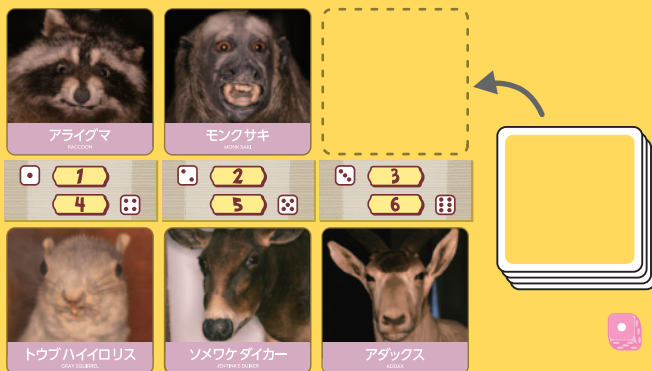
説明書



3~8人 6歳以上 20分

「そんな顔してどうしたの?」は、あなたの顔を使うジェスチャーゲームです。
剥製になった動物たちの顔カードから
出題者が選んだ一つを回答者が推理します。
プレイヤーはL.C.ベイツミュージアム(メイン州の自然史博物館)の剥製たちの
顔を知り、またその過程で自分の顔の表現力を知ることにもなるでしょう。

内容物 動物カード：40枚 ダイス:1個 説明書：1枚 番号タイル：3枚 動物図鑑：1冊



ゲームの準備

カード全てを裏向きでよくシャッフルして、これを山札とします。番号タイルを並べて山札から6枚のカードを表向きで1~6の番号の各スペースに1枚ずつ配置します。

オリジナルルール

遊び方

ランダムに最初の出題者を1人決定します。出題者以外のプレイヤーは全員回答者になります。

出題者は回答者に見えないようにダイスを振って、その出目を確認します(ダイスを振る時に箱を使用すると便利です)。

ダイスの目(1~6)に対応するスペースに配置されているカードの顔について、出題者は次の2つの選択肢のいずれかを選びます。



1. 出題者は指定された顔の真似をします。

◎回答者が1~5人の場合、回答者は出題者がどの顔の真似をしているか、1回だけ回答することができます。(訳注: 原版ルールには回答順の記述がありません。掛け声と同時に全員で一斉にカードを指差して回答するといいでしょ)

◎回答者が6人以上いる場合は正しい顔を早い者勝ちで言い当てます。

出題者が真似した顔を正しく回答したプレイヤーがそのカードを受け取ります。誰かが証明を希望した場合は、出題者はダイスを公開します。

もし2人(以上)の回答者が同時に正しい顔を推測した場合、回答者はその顔の真似をして直接対決し、そしてとびきり上手に顔の真似をしたプレイヤーがそのカードを受け取ります。(訳注: 原版ルールには誰が判定するかの記述がありません。出題者が判定するといいでしょ)

2. 直接対決をすることができます。

ダイスを明らかにし、回答者全員がその顔の真似をして、とびきり上手に顔の真似をしたプレイヤーがそのカードを受け取ります。(訳注: 原版ルールには誰が判定するかの記述がありません。出題者が判定するといいでしょ)

1あるいは2を終えた後、山札から新しいカードを番号タイルの空いたスペースに配置します。テーブルの上には常に6枚のカードが表向きに配置されています。時計回りに出題者を変え、山札が無くなるか、あなたの顔が痛くなるまで続けます。(訳注: 原版ルールには勝敗についての記述がありません。心ゆくまで楽しんでください!)



日本語版バリエーションルール

遊び方

※このルールはより競技的に楽しむためのバリエーションルールです。
以下はオリジナルルールからの変更点になります。

プレイ人数によってゲームで使うカードの枚数が変わります。

3人 ……	29枚	8順+5枚	6人 ……	29枚	4順+5枚
4人 ……	29枚	6順+5枚	7人 ……	26枚	3順+5枚
5人 ……	30枚	5順+5枚	8人 ……	29枚	3順+5枚

最初の出題者を決め、ダイスを振った後、出題者は必ず指定された顔の真似をします。直接対決はありません。

正しい顔を推測できた場合、オリジナルルールの通りに回答者はカードを獲得します。しかし、もし誰も正しい顔を推測できなかった場合、出題者は手持ちのカード1枚を失います。出題者が失ったカードは箱に戻します。もし出題者が1枚もカードを持っていない場合、出題者は何も失いません。

山札がなくなり、カードを6枚配置できなくなったところでゲームは終了します。最も多くのカードを持っているプレイヤーがゲームに勝利します。

(そうしたプレイヤーが複数いる場合は直接対決をするといいでしょう。今回使用しなかったカードから1枚めくり、とびきり上手にそのカードの顔の真似をしたプレイヤーが勝利します。)



ルールの変更やその他の更新については、数寄ゲームズブログを参照してください。
<http://sukigames.seesaa.net/>

ルール原文 by Penelope Taylor

Why the long face? is the face charades game that brings taxidermy to life. Prompts come from a deck of taxidermied animal face cards. Players get to know faces from the L. C. Bates - a natural history museum in Maine, USA - and the expressive capacities of their own faces in the process.

How to play

Deal six cards from the deck in the layout shown, 2 rows of 3 cards. Place number tiles as shown, between the 2 rows.

Player A rolls a die and keeps the results private (you can use the box to roll). Player A is assigned the face corresponding with the number on the die (1-6).

Player A has two options:

~ Make the face assigned. With 1-5 players, each other player gets one guess about which face is being made. With more than 5 players, it's a race to call out the correct face. The card is awarded to the player that correctly guesses the face being made. If someone wants proof, reveal the die to show the number. If two players guess the correct face at the same exact time, they must FACE OFF (see below).

~ FACE OFF. Reveal the die. All the other players must make the face assigned, and Player A awards the card to the player making the best face.

Deal out a new card to replace the card played, so there are always 6 cards out. Play moves on clockwise, and continues until the deck is done or your faces are sore.

For updates visit
www.longfacegame.com

(c)2015 Penelope Taylor
www.longfacegame.com

ゲームデザイン & 写真 : Penelope Taylor
Deck features faces from Maine's L. C. Bates Museum.

【日本語版編集】

企画・翻訳: 円卓P <http://sukigames.seesaa.net/>

デザイン: Osamu Kurata

イラスト: Mutsumi Kawazoe <http://k-mutsumi.com/>

印刷協力: タチキタプリント・グラフィック

